

農村振興に関わる ランドスケープデザイン

01

兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
活用デザイン領域 LM20L022 劉 佳宇

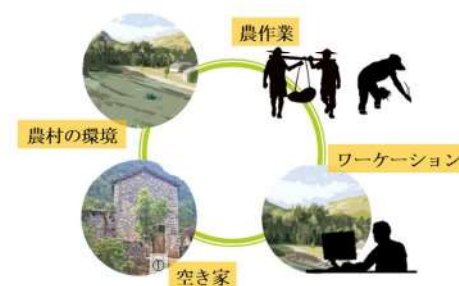
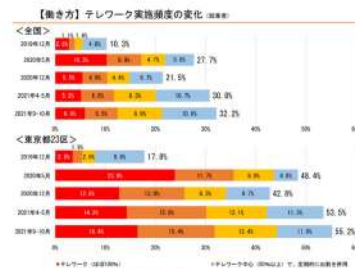
はじめに

社会では急速な都市化に伴い、農村部で過疎化・高齢化が顕著になってきており、就業ができなくなった多くの農村労働者が都市に出稼ぎに行っている。それにより、農村の景観資源や地域のコミュニティ機能を維持することが難しくなっている。そんな中、地域の活性化を促進する方策の一つとして、観光客の誘致などが進められている。そのため、地域資源を活用した使いやすい空間の再整備が重要となってきた。

(馬上ほか 2011)

一方、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、テレワークが盛んになり、多様なライフスタイルと仕事の両立が実現できるようになってきた。

また、農林水産省が都市住民を対象に行った調査「平成26年度食料・農業・農村白書」によると、農村について、「空気がきれい」、「住宅・土地の価格が安い」、「自然が多く安らぎを感じられる」、「子どもに自然をふれさせることができる」などのイメージを持たれている。



そのことより、ワーケーションも含めた農村での暮らしや新しい生き方が今後より一層増えることも考えられる。



農村振興に関わる ランドスケープデザイン

02

兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
活用デザイン領域 LM20L022 劉 佳宇

制作目的

本制作では、過疎化や高齢化に迫られている中国広西チワン族自治区巴馬長寿村にあるA集落を対象として、農村の環境や地域資源を生かし、都市住民が農村で長期・短期生活およびワーケーションができる農村振興の景観整備案を制作することを目的とした。

制作の進め方

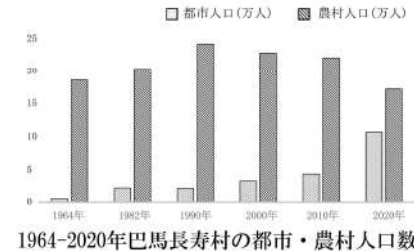
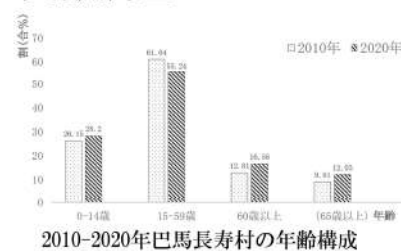
調査	文献調査／現地調査
整理分析	現地条件と課題の分析
計画	基本計画の作成
提案	景観づくりの提案
まとめ	特徴のまとめ

対象地

中国広西チワン族自治区，巴馬長寿村のA集落



文献調査



世界における五つの長寿村の一つといわれ、百歳以上の割合は五つの長寿村で最も高い。巴馬長寿村の人口は約26,000人（中国第7回国勢調査より）第7回国勢調査より、巴馬長寿村は、人口の減少と高齢化に迫られている。

長寿村への観光，2018年の政策支援や高速道路の整備により注目されている。新型コロナの影響により観光客数は減少した。

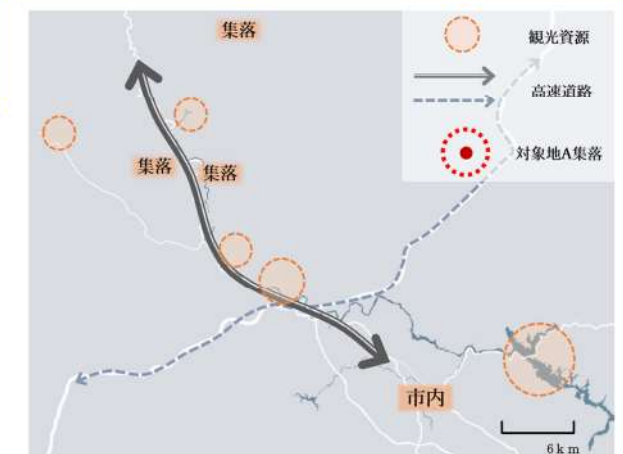


巴馬長寿村はヤオ族が多く、伝統的な民族の習俗、服飾、祭り、歌舞がある。

ヤオ族の服飾は、刺繍を中心としたさまざまな色やスタイルの服装がある。

ヤオ族には伝統的なお祭りが多く、ほぼ毎月行われる小さなお祭りは、場所によってさまざまである。

長寿村は、豊かな自然と観光資源、独特な「長寿」文化を持ち、中国でも著名な養生の「聖地」になっている。



農村振興に関わる ランドスケープデザイン

03

兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
活用デザイン領域 LM20L022 劉 佳宇

長寿に関わる主要素

巴馬長寿村の長寿の秘訣は、地理、気候、環境と密接に関係があるほか、暮らし方、食習慣がある。

地理	気候	食物
①巴馬長寿村は、他の地区より地磁気が約2倍	①亜熱帯モンスーン気候で、降雨量が多い	①火麻やイワヒバのような貴重なハーブと健康に良い農作物がある。
		②土壌はマンガンや亜鉛が多い
②優れた地磁気環境は紫外線を減少し、身体に優しい赤外線を保つことができる	②空気中のマイナス酸素イオンが豊富	③村には地下水が多く、天然アルカリイオン水で、ミネラルや微量元素が豊富で、酸化還元電位が低い



火麻

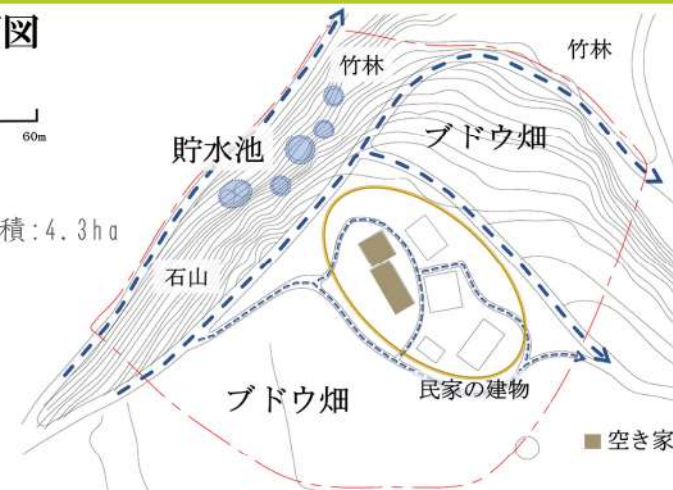


イワヒバ

現状平面図



A集落の面積: 4.3ha



現地調査



赤線で囲まれたA集落で、提案を行いる。村はヤオ族の伝統的な集落の形をしている。建物が五軒あり、そのうち二軒は空き家である。集落内の建物は石壁のものが中心で、中には荒廃が深刻なものもある。対象地には、ブドウ畑、竹林、貯水池がいくつかある。



現地の写真

対象地の資源と課題の整理

	資源	課題
自然資源が豊か	①周囲を山々に囲まれ、森林被覆率が高く	①農村の経済が立ち後れる
	②地形が多様	②人口減少による村の活力が無い
	③大気汚染が少ない、星空が魅力	③空き家
	④「長寿・健康」に適した環境	④農作物の栽培パターンは単一
	⑤貴重なハーブや農作物	⑤日常生活に必要な施設が乏しい
人文資源が豊か	⑥著名な養生「聖地」、景観が魅力	⑥廃棄施設（貯水池）
	⑦既存の石垣や旧民家	

課題解決のための考え方

- 資源と課題を分析した結果、問題解決に向けた要点をあける。
- 当地特有の「長寿」につながる資源を活用し、養生の聖地を築きあげ、観光者を引き付けることや、長期滞在者の誘致につながる環境づくりを行うことが重要である。
 - 既存建築の伝統的な部分を保ったまま改造作業を行うことが重要である。一方、ほとんど崩れた建築に対しては、一部の石壁を修復し、地域の材料を用いて魅力のある改造ができる。
 - 現地の生態環境を守る上で、地形や地相を保ちながら、一部のブドウ畑を田畑に変えるなど、地域の特色のある農産物を多様にすることも重要である。
 - 既存の貯水池は内部空間として再利用できる。

農村振興に関わる ランドスケープデザイン

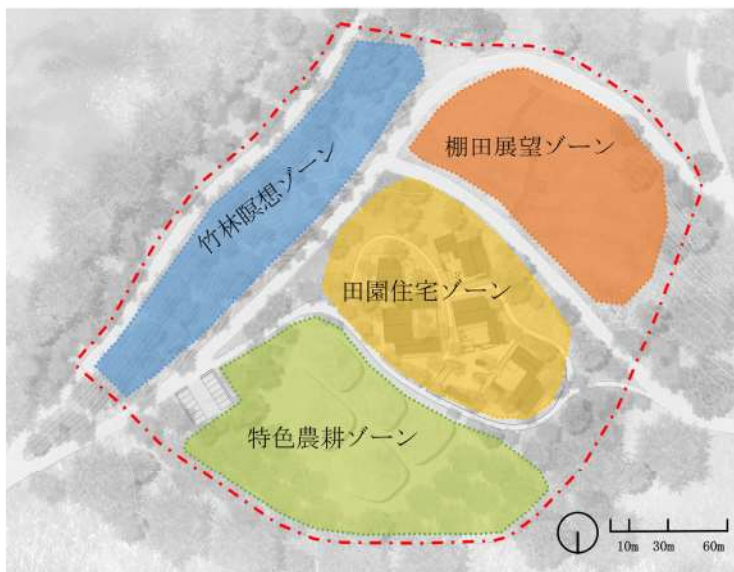
04

兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
活用デザイン領域 LM20L022 劉 佳宇

基本方針

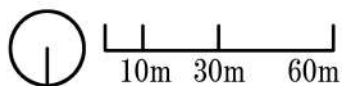
以上の整理から本計画は、対象地域特有の「長寿」要素を生かし、豊かな自然環境と生活を共有する空間づくりを行い、巴馬長寿村らしい観光客や長期滞在者の誘致につながる景観の形成を目指す。

ゾーニング



既存地形と竹林をいかして、南側を棚田展望ゾーン、東側を竹林瞑想ゾーンとした。民家が集中している中心部は、田園住宅ゾーンです。住宅ゾーンの北側は農作物を栽培する、特色農耕ゾーンある。

計画平面図



- | | | | | |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| ① 入口 | ② 駐車場 | ③ ブドウ畑 | ④ 田畑 | ⑤ 田舎食堂 |
| ⑥ 多目ホール | ⑦ 宿泊棟A | ⑧ 宿泊棟B | ⑨ 宿泊棟C | ⑩ 広場 |
| ⑪ 遊歩道 | ⑫ ため池 | ⑬ 棚田 | ⑭ 竹林 | ⑮ 瞑想空間 |

農村振興に関わる ランドスケープデザイン

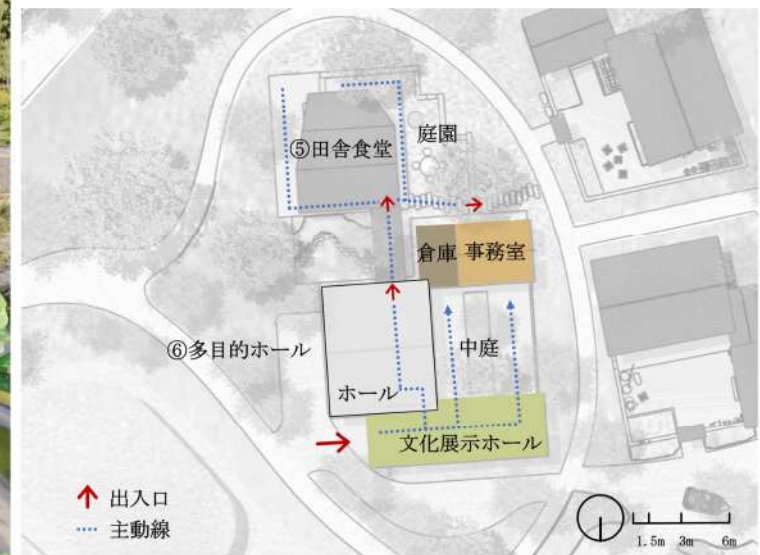
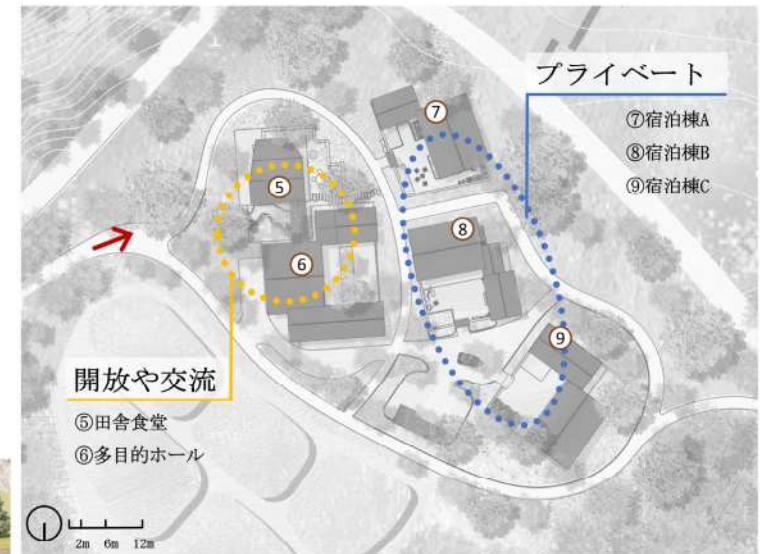
05

兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
活用デザイン領域 LM20L022 劉 佳宇

田園住宅ゾーン

田園住宅ゾーンにある5つの建物は、開放空間は集落への出入り口に近ことから、開放感や交流がうながせる。多目的ホールと田舎食堂の2棟で構成した。多目的ホールには民俗文化を伝える展示空間があるほか、村民や来訪者の集会にも使用できる。食堂は多目的ホールとつながっており、民俗演芸の舞台や宴会にも利用でき、来訪者も地域特有の料理を味わうことができる。

多目的ホールに入ると、まず、民族文化ホールがあり、中庭を横切ると事務室に到着します。入口の南側には、集会や民俗芸能の公演ができるホールがある。ホールを出ると田舎食堂に行くことができる。田舎食堂の出入り口は庭園の西側にあり、宿泊棟に通じている。



農村振興に関わる ランドスケープデザイン

06

兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
活用デザイン領域 LM20L022 劉 佳宇

田舎食堂



田舎食堂の入り口にある石壁は、古いものを修復して再利用したものである。地域の魅力である石かべを景観のポイントにした。



田舎食堂



渡り廊下

多目的ホールを出ると田舎食堂に行くことができます。田舎食堂の出入り口は庭園の西側にあり、宿泊棟に通じている。

農村振興に関わる ランドスケープデザイン

07

兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
活用デザイン領域 LM20L022 劉 佳宇



宿泊棟A

宿泊棟

田園住宅ゾーン西側の建物は主に宿泊棟などのプライベート空間で、既存の「一」字型の配置を「L」型に増築し、特色を保ちつつ客室エリアを作り上げた。

そこに、インフラストラクチャーを完備させ、ネット通信機能のある宿泊棟整備を行う。宿泊棟の西側は村民や来訪者が活動する小さな広場、農繁期も穀物を干す場所として用いることができる。広場にはパーゴラを設置して、休憩や納涼の場として使うこともできる。



農村振興に関わる ランドスケープデザイン

08

兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
活用デザイン領域 LM20L022 劉 佳宇



竹林瞑想ゾーン

対象地の南東側は山地で、放置された貯水池の内部空間を再利用し、人々が休憩・瞑想する空間を提供する。竹林に身を置き、地面に映る日差しを目にしながら、来訪者が竹林を吹き通るそよ風を体で感じることによって、五感が刺激される。さらに、貯水池の貯水機能を利用し、露天風呂に改造することによって、人々に日常生活と異なる体験を提供することができる。地形やきれいな空気が吸えるという特徴を生かして、星空を見上げる展望台を設えた。瞑想空間の壁には丸い窓を設置し、フレーム効果により、独特な景観体験ができる。

農村振興に関わる ランドスケープデザイン

09

兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
活用デザイン領域 LM20L022 劉 佳宇

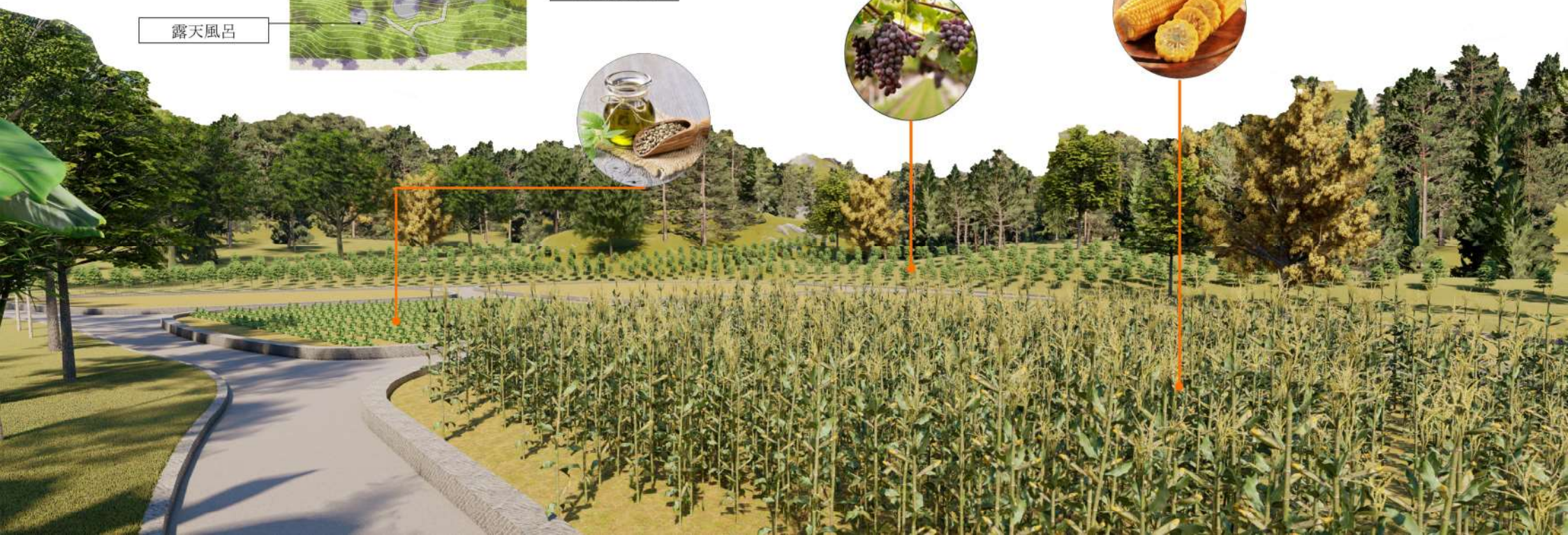
竹林瞑想ゾーン



星空展望台

露天風呂

瞑想空間



特色農耕ゾーン

既存のブドウ畑を一部田畑に変え、この村の特色であるトウモロコシや火麻、イワヒバなど漢方薬材になる植物を植え、地域の農業の栽培構造を豊かにする。それらの植物と健康理念を結びつけ、食堂と連携を取り、薬膳を提供することもできるほか、観光客が農作物の栽培体験をすることも可能である。

農村振興に関わる ランドスケープデザイン

10

兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科
活用デザイン領域 LM20L022 劉 佳宇

棚田展望ゾーン

対象地の南西側は棚田であり、遠くを眺められるよう歩道橋や展望台を設置し、村全体を見渡せる空間とした。歩道橋から風景を楽しむと同時に、稲の栽培や収穫の過程を見物したり、体験したりすることができ、農民の働く姿も一種の景観となる。



環境面では、農村の環境を再整備し、固有の地形、青空や貯水池など、人々の心身をリラックスさせる瞑想空間を築き上げ、癒しの効果に寄与した。空き家を、多目的ホールや食堂に活用し、交流や活動ができる空間を提供した。宿泊棟は、ネット通信機能などをととのう、宿泊やワーケーションができるプライベート空間が提供された。



飲食の面では、多様な植物を新たに植栽したことにより、観光客に健康食を提供すると同時に、農作物の栽培体験を提供することも可能である。



農作と休憩、生産と芸術、農村と都市、地域住民と来訪者、農風景の美と人の交流が融合され、人と自然が調和した田園風景の形成ができる。

まとめ



「長寿」につながる資源を生かし、観光客誘致につながる景観作りを行った。

